

明日を創る医療総合誌

平成23年1月1日発行(毎月1回1日発行)
昭和49年10月15日第三種郵便物認可

C LINIC magazine

2011
JAN
1

No. 498

[特集]

在宅医療革命2011

[座談会]

「在宅医療を普及させるには」(東京)

ケーススタディ

池端病院(福井) / 新川地域在宅医療療養連携協議会(富山)

[新連載] 対談シリーズ

梅村 聡氏 × 長尾和宏氏

維新の蘭学医 関寛斎からのメッセージ

医界展望2011

嘉山孝正氏 / 濃沼信夫氏 / 西澤寛俊氏 / 信友浩一氏 / 福島雅典氏 / 邊見公雄氏 / 堀 正二氏 / 松澤佑次氏 / 門田守人氏

「伝統医学国際分類」作成のプロジェクトを開始

世界保健機関（WHO）は12月6日に都内で記者会見を行い、伝統医学の国際標準用語および分類体系を作成する「伝統医学国際分類」（international classification of traditional medicine；ICTM）のプロジェクトを開始した、と発表した。

伝統医学（補完代替医療〔CAM〕を含む）はアジア、アフリカ、中南米等を中心に医療行為として普及、現在は欧州や北米などの地域でも、ハーブ療法や鍼療法などの伝統医学やCAMの利用が増加している一方で、分類体系としての世界標準がこれまで確立していないのが現状だ。そこでWHOは、伝統医学における国際標準分類、標準用語を作成するICTMのプロジェクトを進め、現在改訂作業中の国際疾病分類「ICD-11」（2015年スタート予定）に、伝統医

学の体系を盛り込むこととなった。

プロジェクトでは、伝統医学に共通部分の多い日本・中国・韓国などの、東アジアの伝統医学分類から着手し、その後、その他の国の伝統医学を分類。ICTMの作成には、国際的な文書共同作成のウェブベース・ツールであるiCATを使用して、各国の識者が伝統医学の用語や概念の資料を作成、文書化していく。

WHO事務局長補のマリー・ポール・キニー博士は、今回の会見にビデオ・メッセージを寄せ、「標準用語や標準分類を作るといっても、伝統医学やCAMの科学的な有用性をWHOが保証するわけではない」と注意を促しながらも、「伝統医学の安全性や有効性に加え、その方式や頻度をよく理解できる有意義な情報を構築するという意味で、本プロジ



▲記者会見のようす

ジェクトは大変重要」と強調した。また、ICTM諮問グループ（ICTM-PAG）の共同議長を務める渡辺賢治氏（慶應義塾大学医学部漢方医学センター長）は、「日本では伝統医学である漢方を日常診療で用いている医師が84%にのぼっているにも関わらず、漢方の公式な疾病統計はこれまで存在しなかった。ICTMはその統計調査だけでなく、教育、臨床研究のための基礎にもなる」と強い期待を示した。

地球の健康とすべての人々の健康で豊かな生活に貢献したい。それが私たちスズケンの壮大なテーマです。

スズケンの事業領域は、健康創造。医薬品流通業界のリーディングカンパニーとして医薬品・医療機器の供給をはじめ健康に関するあらゆる分野でお役に立てるプライム・ベンダーをめざしています。

 **SUZUKEN**
<http://www.suzuken.co.jp>



Design
Your
Smile
健康創造の
スズケングループ